

卷末資料 1 企業ニーズ調査アンケート質問票 ヒアリング質問票

ID :

職業訓練に必要とされる DX 関連技術の明確化に係る企業ニーズ調査
質問票

貴社について

以下の項目について、ご回答ください。

1-1. 貴社名	
1-2. 所在地	〒
1-3. ご記入者部署名	
1-4. ご記入者役職	
1-5. ご担当業務 (ご記入者様のご担当業務に○をお付けください。その他選択の場合は具体的に書きください)	1. DX 推進担当※ 3. その他 () 2. 人材育成担当 ※DX 推進担当: 社内で DX を推進していく立場にある人や、情報システム担当者
1-6. ご記入者氏名	
1-7. 電話番号	☎ () ※ ご回答内容に関して、お電話にて照会させていただく場合がありますので、ご記入者様に直接ご連絡可能な電話番号のご記入をお願いいたします。
1-8. 資本金 (一つに○をお付けください)	1. 300 万円以下 5. 3 千万円超 ～ 5 千万円 2. 300 万円超 ～ 500 万円 6. 5 千万円超 ～ 1 億円 3. 500 万円超 ～ 1 千万円 7. 1 億円超 4. 1 千万円超 ～ 3 千万円
1-9. 貴社の全従業員数 ※パートアルバイト等含む (人数をお書きください)	名
1-10. 貴社の正社員数 (人数をお書きください)	名
1-11. 従業員の平均年齢 (一つに○をお付けください)	1. 20 代 2. 30 代 3. 40 代 4. 50 代 5. 60 代以上

1-12. 貴社（貴団体）の主力事業の内容について具体的にご記入ください。

--	--

★本調査では、D X（Digital Transformation）を以下の通り定義します。

用語	定義
DX	企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。 (出典：経済産業省「DX 推進ガイドライン」)

貴社の DX の状況について伺います

2-1. 貴社における D X 推進の水準は、以下にあげる水準のうち、どれに該当しますか。該当するもの一つに○をお付けください。また、近い将来（3 年から 5 年程度）の目標としてどの水準に達したいと思われますか。該当するもの一つに○をお付けください。

		現状の水準	近い将来の目標
<水準>		↓1 つに○	↓1 つに○
<内容>			
1. 製造や建設の現場でデジタル技術を活用し、デジタル技術を前提とした商品・サービスを開発している	ビジネス環境（顧客や競争相手）の変化に適応して、自社の組織や仕組み、サービスをデジタルへとシフトし、差別化・競争優位を確立しており、AI 等の最新のデジタル技術を活用した商品・サービスの開発に取り組んでいる。		
2. 製造や建設等の現場でデジタル技術を活用している	組織全体の業務フロー・プロセスを最適化するために、AI や IoT 等のデジタルツールを使用し、組織の生産性を高めている。デジタル技術を前提とした商品やサービスの開発までは至っていない。		
3. 事務作業をデジタル化している	紙で管理していた書類をデジタルツールで管理するなど、アナログの情報をデジタル化してデータを蓄積できる環境を整えるなど、部分的なデジタル化に留まっている。製造やサービス提供等の現場でのデジタル化までは至っていない。		
4. デジタル化への対応は進んでいない	社内の業務は紙ベースでの処理や手作業のものが多く、デジタルツールの活用はあまり進んでいない。		

2-2. 貴社の DX 推進への関心度合はどの程度でしょうか。該当するもの一つに○をお付けください。

- | | | |
|-------------|------------|--------------|
| 1. とても関心がある | 2. まあ関心がある | 3. どちらとも言えない |
| 4. あまり関心がない | 5. 全く関心がない | |

2-3. 2-2 で答えた理由を具体的にご記入ください。

3. 貴社の DX 推進における課題は何ですか。以下の選択肢のうち、貴社の DX 導入の問題や課題として該当するものに○をお付けください。(複数選択可)

1. 会社としての方針や戦略がない
 2. DX 推進の効果についての理解が不十分
 3. 経営者及び管理職のデジタル技術についての知識・技術が不足している
 4. 従業員のデジタル技術についての知識・技術が不足している
 5. DX 推進の専門部署が設置されていない
 6. DX 推進の統括をする人材がいない
 7. DX 推進の人材の育成に課題がある
 8. DX 推進の人材の確保に課題がある
 9. DX 推進の予算が不足している
 10. その他

（具体的に：

4. DX推進に必要なマインド・スタンス

※マインド・スタンス：「社会変化の中で新たな価値を生み出すために必要な意識・姿勢・行動を定義することであり、個人が自身の行動を振り返るための指針かつ、組織・企業がDX推進や持続的成長を実現するために、構成員に求める意識・姿勢・行動を検討する指針とする」（出典：経済産業省「DXリテラシー標準 ver1.0」）

4-1. DXの推進には以下の項目にあげられている考え方とその実践が重要とされています（マインド・スタンス）。貴社では、それぞれについてどの程度実践出来ていると思われますか。

項目ごと、経営者層、DX推進者※、一般社員の別で、それぞれ1～5の選択肢のうち該当するもの一つに○をお付けください。

※DX推進者：社内でDXを推進していく立場にある人や、情報システム担当者

項目 (出典：経済産業省「DX リテラシー標準 ver1.0」)			よく出来て いる	まあ出来て いる	どちらとも 言えない	あまり出来 ていない	全く出来 ていない	
1	変化への適応： (例) ・環境や仕事・働き方の変化を受け入れ、適応するために自ら主体的に学んでいる ・自身や組織が持つ既存の価値観の尊重すべき点を認識しつつ、環境変化に応じた新たな価値観、行動様式、知識、スキルを身につけている	経営者層	→	1	2	3	4	5
		DX 推進者	→	1	2	3	4	5
		一般社員	→	1	2	3	4	5
2	コラボレーション： (例) ・価値創造のためには、様々な専門性を持った人と社内・社外問わずに協働することが重要であることを理解し、多様性を尊重している	経営者層	→	1	2	3	4	5
		DX 推進者	→	1	2	3	4	5
		一般社員	→	1	2	3	4	5
3	顧客・ユーザーへの共感： (例) ・顧客・ユーザーに寄り添い、顧客・ユーザー自身の立場に立ってニーズや課題を発見しようとしている	経営者層	→	1	2	3	4	5
		DX 推進者	→	1	2	3	4	5
		一般社員	→	1	2	3	4	5
4	常識にとらわれない発想： (例) ・顧客・ユーザーのニーズや課題に対応するためのアイデアを、既存の概念・価値観にとらわれずに考えている ・従来の物事の進め方の理由を自ら問い、より良い進め方がないか考えている	経営者層	→	1	2	3	4	5
		DX 推進者	→	1	2	3	4	5
		一般社員	→	1	2	3	4	5
5	反復的なアプローチ： (例) ・新しい取り組みや改善を、失敗を許容できる範囲の小さいサイクルで行い、顧客・ユーザーのフィードバックを得て反復的に改善している ・失敗したとしてもその都度軌道修正し、学びを得ることができれば「成果」とであると認識している	経営者層	→	1	2	3	4	5
		DX 推進者	→	1	2	3	4	5
		一般社員	→	1	2	3	4	5
6	柔軟な意思決定： (例) ・既存の価値観に基づく判断が難しい状況においても、価値創造に向けて必要であれば、臨機応変に意思決定を行っている	経営者層	→	1	2	3	4	5
		DX 推進者	→	1	2	3	4	5
		一般社員	→	1	2	3	4	5

項目 (出典：経済産業省「DX リテラシー標準 ver1.0」)			よく出来て いる	まあ出来て いる	どちらとも 言えない	あまり出来 ていない	全く出来 ていない	
7	事実に基づく判断： (例) ・ 勘や経験のみではなく、客観的な事実やデータに基づいて、物事を見たり、判断したりしている	経営者層	→	1	2	3	4	5
		DX 推進者	→	1	2	3	4	5
		一般社員	→	1	2	3	4	5
8	DX 推進への理解： (例) ・ 変化する経営・市場環境の中で、商品の開発や、業務効率化等を通して会社の競争力を維持するために、DX 推進が重要であることを理解している	経営者層	→	1	2	3	4	5
		DX 推進者	→	1	2	3	4	5
		一般社員	→	1	2	3	4	5
9	データ利活用： (例) ・ DX 推進のためにデータの利活用が必要であることを理解し、その利活用の方法を知っている	経営者層	→	1	2	3	4	5
		DX 推進者	→	1	2	3	4	5
		一般社員	→	1	2	3	4	5
10	デジタル技術の業務活用： (例) ・ AI や IoT などのデジタル技術を活用した具体的な事例を理解し、実際に業務に活用している	経営者層	→	1	2	3	4	5
		DX 推進者	→	1	2	3	4	5
		一般社員	→	1	2	3	4	5

4-2. その他、貴社でDX推進を円滑にするうえで必要と思われるマインド・スタンスがあれば、以下に具体的にご記入ください。

4-3. 以下の各項目について、貴社では DX 推進によりどの程度の効果が見込まれると思いますか。

項目ごとに、1～6の選択肢のうち貴社の考えに最も近いもの一つに○をお付けください。

項目			大きな 効果が 見 込める	効果は 見込める	ど ち ら と も 言 え ない	い 効果 は 見 込 め な い	め 全 く 効 果 は 見 込 め ない	わ か ら な い
1	業務の効率化（労働生産性の向上）	→	1	2	3	4	5	6
2	人的資源の効果的活用	→	1	2	3	4	5	6
3	熟練技術の継承	→	1	2	3	4	5	6
4	コスト削減、利益・財務の改善	→	1	2	3	4	5	6
5	製品・サービスの強化（新商品・新サービスの開発力強化、短納期化）	→	1	2	3	4	5	6
6	品質の向上・品質管理の効率化	→	1	2	3	4	5	6
7	顧客満足度の向上	→	1	2	3	4	5	6
8	情報共有の促進（社内コミュニケーション活性化、意思決定の迅速化）	→	1	2	3	4	5	6
9	人材の確保・育成	→	1	2	3	4	5	6

5-1. 貴社では、以下の **DX 関連技術** を業務に活用することに関心はありますか。また利用や開発をしていますか。技術ごとに、1～4 の選択肢のうち該当するもの 一つに ○をお付けください。関心がある・ない以前に、その技術がよくわからない場合は「5（わからない）」に○をお付けください。

DX 関連技術			業務に関心がない 業務に必要ない	関心はあるが、利 用はしていない	関心があり、利用 しているが、その 技術を使って開 発はしていない	関心があり、利用 しており、その技 術を使って開発 もしている	関心があり、利用 しており、その技 術を使って開発 もしている	わからない
1	センシング技術	→	1	2	3	4		5
2	クラウド利用技術	→	1	2	3	4		5
3	AI（人工知能）関連技術	→	1	2	3	4		5
4	画像処理・解析技術	→	1	2	3	4		5
5	仮想モデリング技術 （BIM※1、 CIM※2 など）	→	1	2	3	4		5
6	IoT スマート・デバイス活用技術 （XR※3/ドローンなど）	→	1	2	3	4		5
7	産業用ロボット関連技術	→	1	2	3	4		5
8	業務自動化技術（RPA※4 など）	→	1	2	3	4		5
9	シミュレーション技術 （デジタルツインなど）	→	1	2	3	4		5
10	プログラミング技術 （Python など）	→	1	2	3	4		5
11	ネットワーク基盤技術	→	1	2	3	4		5
12	データ分析・活用技術	→	1	2	3	4		5

※1 BIM（Building Information Modeling）：コンピュータで建物のツインモデルを作成し、より効果的で効率的な建物づくりを実現するための仕組み。主に建築分野で使われている。

※2 CIM（Construction Information Modeling）：BIM と同様の仕組み。主に土木分野で使われている。

※3 XR（Cross Reality: 拡張現実）：現実世界において実際には存在しないものを表現・体験できる技術。AR（拡張現実）、MR（複合現実）、VR（仮想現実）に大別される。

※4 RPA（Robotic Process Automation）：パソコンで行っている事務系の定型作業を自動化・代行するソフトウェアロボット技術。

5-2. 5-1のDX関連技術で「2（関心はあるが、利用していない）」に1つでも○を付けた方に伺います。

以下のDX関連技術で「関心はあるが、利用していない」と回答された技術について、その技術を利用していない理由は何ですか。1～4の選択肢のうち該当するものに○をお付けください（複数回答可）。なお、「その他」の場合は、その具体的な内容をお書きください。

DX 関連技術			社内業務における具体的な用途・有効性がわからない	導入するための知識や技術がない	予算上の問題	設備や機器、物的な環境（スペース等）が不足している	その他 (理由を、具体的にお書きください)
※5-1で「2（関心はあるが、利用していない）」と回答していない技術への回答は不要です。							
1	センシング技術	→	1	2	3	4	
2	クラウド活用技術	→	1	2	3	4	
3	AI（人工知能）関連技術	→	1	2	3	4	
4	画像処理・解析技術	→	1	2	3	4	
5	仮想モデリング技術（BIM, CIM など）	→	1	2	3	4	
6	IoT スマート・デバイス活用技術（XR/ドローンなど）	→	1	2	3	4	
7	産業用ロボット関連技術	→	1	2	3	4	
8	業務自動化技術（RPA など）	→	1	2	3	4	
9	シミュレーション技術（デジタルツインなど）	→	1	2	3	4	
10	プログラミング技術（Python など）	→	1	2	3	4	
11	ネットワーク基盤技術	→	1	2	3	4	
12	データ分析・活用技術	→	1	2	3	4	

5-3. 今後、導入したいとお考えのDX関連技術が上記以外にありましたら具体的にご記入ください。

--

6-1. 以下の課題例は、DX 関連技術により解決可能な課題とされています。貴社ではどのように対応されていますか。課題例ごとに、1～3の選択肢のうち該当するもの一つに○をお付けください。

分類	課題例		／ 該当しない	D X 関 連 技 術 に よ り 解 決 す る 必 要 が な い	決 し た い	今 後、D X 関 連 技 術 に よ り 解 決 す る	解 決 し て い る	す で に D X 関 連 技 術 に よ り 解 決 し て い る
人材育成	熟練工の技能の見える化・データ化による技能伝承を効果的にやりたい。	→		1	2		3	
	従業員のスキルの見える化を図りたい。	→		1	2		3	
データ共有化	データの共有化により業務の効率化を図りたい。	→		1	2		3	
データ分析／活用	担当する業務に対して、ビッグデータを収集／分析し、そのデータを利活用したい。	→		1	2		3	
生産管理	生産工程の進捗状況をリアルタイムで把握したい。	→		1	2		3	
生産計画	過去の生産履歴のデータを分析して、効率的な生産計画を作成したい。	→		1	2		3	
設計開発	設計のノウハウをデータベース化し、標準化したい。	→		1	2		3	
	生産ラインにおいてロボットシステムの運用をしたい。	→		1	2		3	
	モデリングや構造解析により、設計の効率化につなげたい。	→		1	2		3	
	効率的な設計をしたい。	→		1	2		3	
製造	ロボット化・IoT・AIを組み合わせる省人化・自動化したい。	→		1	2		3	
工事施工	施工計画の立案・検討をしたい。	→		1	2		3	
検査	製品の見えない部分や、建物の隠蔽部分の検査・診断をしたい。	→		1	2		3	
品質管理	不良品を自動検知したい。	→		1	2		3	
	製品検査を効率化したい。	→		1	2		3	
在庫管理	製品の受注・生産・完成をリアルタイムでモニタリングし在庫管理を自動化したい。	→		1	2		3	
保安全管理	状態監視・分析による予兆保全をしたい。	→		1	2		3	
	条件監視保全やセキュリティ管理を最適化したい。	→		1	2		3	
	外装・外壁の劣化診断など中長期の保全の提案をしたい。	→		1	2		3	

6-2. 6-1 以外に DX 関連技術により解決したい課題があれば、以下に具体的にご記入ください。

6-3. 6-1で「2（今後、DX関連技術により解決したい）」に1つでも○を付けた方に伺います。

以下の課題例で「今後、DX関連技術により解決したい」と回答された課題例について、現在DX関連技術によって解決できていない理由として該当するものに○をお付けください。（複数回答可）

分類	課題例 ※6-1で「2（今後、DX関連技術により解決したい）」と回答していない課題例への回答は不要です。	効性がわからない	社内の業務における具体的な用途・有	導入するための知識や技術がない	予算上の問題	設備や機器、物的な環境（スペース等）が不足している	その他
人材育成	熟練工の技能の見える化・データ化による技能伝承を効果的にやりたい。	→ 1		2	3	4	5
	従業員のスキルの見える化を図りたい。	→ 1		2	3	4	5
データ共有化	データの共有化により業務の効率化を図りたい。	→ 1		2	3	4	5
データ分析／活用	担当する業務に対して、ビッグデータを収集／分析し、そのデータを利活用したい。	→ 1		2	3	4	5
生産管理	生産工程の進捗状況をリアルタイムで把握したい。	→ 1		2	3	4	5
生産計画	過去の生産履歴のデータを分析して、効率的な生産計画を作成したい。	→ 1		2	3	4	5
設計開発	設計のノウハウをデータベース化し、標準化したい。	→ 1		2	3	4	5
	生産ラインにおいてロボットシステムの運用をしたい。	→ 1		2	3	4	5
	モデリングや構造解析により、設計の効率化につなげたい。	→ 1		2	3	4	5
	効率的な設計をしたい。	→ 1		2	3	4	5
製造	ロボット化・IoT・AIを組み合わせることで省人化・自動化したい。	→ 1		2	3	4	5
工事施工	施工計画の立案・検討をしたい。	→ 1		2	3	4	5
検査	製品の見えない部分や、建物の隠蔽部分の検査・診断をしたい。	→ 1		2	3	4	5
品質管理	不良品を自動検知したい。	→ 1		2	3	4	5
	製品検査を効率化したい。	→ 1		2	3	4	5
在庫管理	製品の受注・生産・完成をリアルタイムでモニタリングし在庫管理を自動化したい。	→ 1		2	3	4	5
保安全管理	状態監視・分析による予兆保全をしたい。	→ 1		2	3	4	5
	条件監視保全やセキュリティ管理を最適化したい。	→ 1		2	3	4	5
	外装・外壁の劣化診断など中長期の保全の提案をしたい。	→ 1		2	3	4	5

6-4. 6-3で「その他」を選択したものについて、その理由を具体的にお書きください。

6-5. 以下の各項目に関して、近い将来（3年から5年程度）において、貴社においてDX推進の度合はどの程度だと思われますか。項目ごとに、1～5の選択肢のうち該当するもの一つに○をお付けください。わからない場合は、「6（わからない）」に○をお付けください。

項目		積極的に取り組む と思う	まあ積極的に 取り組むと思う	どちらとも言え ない	あまり積極的 に取り組まな いと思う	取り組まな いと思う	わからない
1. 企業文化や組織マインドの根本的な変革	→	1	2	3	4	5	6
2. 現在のビジネスモデルの根本的な変革	→	1	2	3	4	5	6
3. 新規製品・サービスの創出	→	1	2	3	4	5	6
4. 既存製品・サービスの高付加価値化	→	1	2	3	4	5	6
5. 業務の効率化による生産性の向上	→	1	2	3	4	5	6

6-6. 6-5で「1（積極的に取り組むと思う）」、「2（まあ積極的に取り組むと思う）」に○をされた項目について、具体的に組みたい内容をご記入ください。

DX に関する人材ニーズ等について伺います

7-1. 貴社では、デジタル関連技術などの DX 技術や知識を有する人材が欲しいと思われますか。以下の選択肢のうち該当するもの一つに○をお付けください。

- | | | |
|--------------|-----------|--------------|
| 1. 大いに欲しい | 2. まあ欲しい | 3. どちらとも言えない |
| 4. あまり欲しくはない | 5. 欲しくはない | |

7-2. 人材ニーズ（スキル）

以下にあげるスキルのうち、貴社が求める人材のスキルはどのようなものでしょうか。採用時に必要なスキルと、入社後に社員に身に付けてもらいたいスキルに分けて、該当するものにそれぞれ○をお付けください。（複数回答可）

		採用時に 必要な スキル	入社後に 身に付けて もらいたい スキル
<分類>		↓複数可	↓複数可
DX 推進に 必要な スキル	1 AI と IoT の活用ができる。		
	2 貴社のデジタル化・DX 化の取組を統括し、推進できる。		
	3 データの活用・分析・解析ができる。		
	4 業務の中における課題を発見し、解決策を考案できる。		
ツール・デバイス 利用スキル	5 Web 会議システムやオフィスツール等の活用ができる。		
	6 タブレット等の情報端末を利用できる。		
	7 IoT デバイス（XR/ドローンなど）を利用できる。		
	8 BIM を利用して効率的な建築設計ができる。		
	9 BIM データを利用して施工計画の立案・検討ができる。		
	10 CAD やシミュレータを利用して、設計・開発できる。		
	11 クラウド・サービスを利用できる。		
システム導入・ 運用スキル	12 ネットワーク機器等の構成、設定ができる。		
	13 情報セキュリティ対策（人的、物理的、技術的対策）ができる。		
	14 ネットワークの運用・保守ができる。		
	15 デジタルツールやシステムの機能比較や導入支援ができる。		
	16 基幹システムの提案・導入・運用・管理ができる。		

8-1. 人材育成

現在、貴社が実施されている人材育成は、どのような方法で実施されていますでしょうか。以下のスキルの分類ごとに、1～4の選択肢のうち該当するものに○をお付けください。(複数回答可)
 なお、現在実施しておらず、今後人材育成を実施したいスキルについては「5 (検討中)」に○をお付けください。

スキルの分類	(スキルの例)	自己学習	内研修 ・社	社外研修	実施なし	検討中
DX 推進に必要なスキル	・ AI と IoT の活用ができる ・ 貴社のデジタル化・DX化の取組を統括し、推進できる ・ データの活用・分析・解析ができる ・ 業務の中における課題を発見し、解決策を考案できる	→ 1	2	3	4	5
ツール・デバイス利用スキル	・ Web 会議システムやオフィスツール等の活用ができる ・ タブレット等の情報端末を利用操作できる ・ IoT デバイス (XR/ドローンなど) を活用できる ・ BIM を利用して効率的な建築設計ができる ・ BIM データを利用して施工計画の立案・検討ができる ・ CAD やシミュレータを利用して、設計・開発できる ・ クラウド・サービスを利用できる	→ 1	2	3	4	5
システム導入・運用スキル	・ ネットワーク機器等の構成、設定ができる ・ 情報セキュリティ対策 (人的、物理的、技術的対策) ができる ・ ネットワークの運用・保守ができる ・ デジタルツールやシステムの機能比較や導入支援ができる ・ 基幹システムの提案・導入・運用・管理ができる	→ 1	2	3	4	5
システム開発スキル	・ センシング技術を活用できる ・ クラウドの活用ができる／クラウドコンピューティングにおける設計と構築ができる ・ AI (人工知能) 関連技術を活用できる ・ 画像処理・解析技術を活用できる ・ 仮想モデリング技術 (BIM, CIM など) を活用できる ・ IoT デバイス (XR/ドローンなど) を活用できる ・ 産業用ロボット関連技術を活用できる ・ 業務自動化技術 (RPA など) を活用できる ・ デジタルツインシステムの活用ができる／デジタルツインを利用したシステムが開発できる ・ プログラミング技術 (Python など) を活用できる ・ ネットワーク基盤技術を活用できる ・ データ分析・活用技術を活用できる	→ 1	2	3	4	5

職業訓練のサービスの在り方について

9. 職業訓練で提供される訓練内容の今後の方向性について、以下の設問にご回答ください。

※職業訓練：キャリアアップや希望する就職を実現するために必要な知識、技能及び技術を習得することができる制度です。

9-1. 今後の国際情勢や労働市場の変化または技術の進展により、各企業の「競争力の優位性」に必要な技術も変化していきます。それに対応するため、職業訓練もその時々ニーズに臨機応変に対応した内容の訓練を提供することがよいと思われますか。以下の選択肢から、該当するもの一つに○をお付けください。

- | | |
|---------|-----------|
| 1. そう思う | 2. そう思わない |
|---------|-----------|

9-2. ものづくりの基盤スキル（汎用機械加工、電気工事、建築施工など、熟達が求められる技術）を習得する訓練について、貴社のお考えは、以下 1 と 2 のどちらの考え方に近いですか。該当するもの一つに○をお付けください。

1.	ものづくりの基盤スキルは、これまで通り DX の進展や関連技術の状況に関わらず、職業訓練でしっかりと教えてもらいたい
2.	職業訓練の内容は、DX の進展や関連技術の状況に応じてデジタル技術を付加したものに変更するなどして、これまでのものづくりの基盤スキルに関するものは見直してもらいたい

9-3. 技術分野の指導業務以外の顧客に対する人材育成支援、訓練コースのコーディネート等、能力開発支援サービス等についてニーズはありますか。以下の選択肢から、該当するもの一つに○をお付けください。

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

9-4. 9-3 で「1. ある」と回答した方に伺います。

具体的には、どのような支援やサービスがあると良いですか。具体的にご記入ください。

アンケートは以上です
ご協力ありがとうございました

ヒアリング質問票

1. 企業の基礎情報

1-1. 名称	
1-2. 事業内容	(アンケート設問1-9の回答でわからない部分があれば質問)
1-3. 実施の方法	1. オンライン 2. 対面
1-4. 実施日時・場所	
1-5. 回答者 所属・役職・氏名	回答者の属性からDX推進者(部署)を置いているかいないかを確認し、置いていない場合、DXは誰(または部署)を中心に推進しているのかを確認。また、専任の推進者を置いているかどうかを確認する。
1-6. インタビュー 一同席者	

2. DX 推進の状況・DX 推進に必要な要素

2-1. DX 推進の水準	①アンケートの設問2-1では、御社におけるDXの水準についてご回答いただいておりますが、DX推進の具体的な状況についてご回答いただけますでしょうか。 ・背景:DX化のきっかけ ・どの部署が ・どのようなことを、(取り組んでいる内容が多い場合は一番成果のあったもの) ・どれくらいからの期間取り組んでいるか ②DXの水準の近い将来(3-5年後)の目標についてご回答いただいておりますが、目標とされる水準の内容のイメージ等について簡単にご回答いただけますでしょうか。 ・目指している事項 ・どうありたいか、あるべき姿とは、具体的なもの ・DX化が企業に何をもたらすか?
2-2. DX 推進における課題	アンケートの設問3では御社のDX推進における課題についてご回答いただいておりますが、その背景や理由はどのようなものでしょうか。 ・現在の課題、DXが進まない要因、 ・検討中の改善策は?
2-3. DX 推進に必要なマインド・スタンス	アンケートの設問4-1で、DX推進に必要なマインド・スタンスについて、項目の実践の度合いを、経営者層、DX推進者、全社員に分けてご回答いただいておりますが、この中で特に御社において課題となる項目はどれでしょうか。その具体的な状況とその理由についてうかがえますでしょうか。 ・マインドスタンスの重要性はあるか? ・特に御社で重要視しているマインドスタンスとは?(記述以外でも) ・それを養うにはどうすればよいか、何が有効か? ・特にDX推進部(課)がない企業は、どのようにマインドを醸成していくのか?

3. 導入・運用・開発されている技術・システム

アンケートの設問5群と6群ではデジタル技術やDXで解決したい業務上の課題について質問しておりますが、利用/開発されている技術・システムの具体的な機能、利用/開発の経緯、効果、課題についてうかがえますでしょうか。

- ・DXで活用している技術的内容と効果
- ・今後取り組んでいきたい技術内容と期待する効果について
- また技術的内容についてOJT、OFF-JTで習得しているのか?

4. 求められるデジタル人材の役割とスキル	
4-1. 採用する社員に有してもらいたいスキル	アンケート設問 7-2 では、採用時に社員に有してもらいたいスキルについてご回答いただいておりますが、これらのスキルを有する社員を採用したい理由は、どのようなものでしょうか。また、その社員にはどのような役割を期待されておりますでしょうか。 ※新卒者採用か中途採用により求めるレベルが変わるのかも併せて確認する。 ・採用スキル
5. 人材の育成	
5-1. 人材育成	アンケートの設問 7-2 では、貴社が社員に身に付けてもらいたいスキルということでご回答いただいておりますが、その理由は、どのような背景でしょうか。また、これらの社員にどのような役割を期待されておりますでしょうか。 ・職務スキル
5-2. 人材育成の方法	アンケートの設問 8-1 では、人材育成の方法について、社員の自己学習、OJT・社内研修、社外研修と区別してご回答いただいておりますが、社外研修とご回答されているのは区別されているのはどのような理由からでしょうか。（社内に教える人がいない、機材が不足している、社外研修の方がコストが安いから等） ・DX 関連技術について、社外研修に期待していること ・社外研修で身につけたいスキルについて具体的な内容はどのようなものがあるか
6. 職業訓練のサービスの在り方について	
6-1. 職業訓練の体系をフレキシブルなものにするか	「公共の職業訓練サービス」に期待することはありますか？ （回答に自由記述がある場合、その内容に言及） （ある場合）具体的にはどのようなことでしょうか
6-2. 職業訓練の体系を DX 前提にするかどうか	
6-3. 職業訓練指導員の指導業務以外のサービスの要望	

